

第4回丹波の森づくり推進検討委員会の意見のまとめ

●会議の要約（主な論点と結論）

課題の変遷

- ・ 30年前：外部からの開発圧（オーバーユース）
- ・ 現在：利用の減少（アンダーユース）・認知不足

条例案（包括的な理念）

- ・ 核となるキーワード：『継承』
- ・ 過去の積み重ね、自然や町並みの価値を未来へ繋ぐ
- ・ 基本理念の中に、実践層（市民）への思いを内包する

提案書・ツール（実効性と浸透性）

- ・ 年齢に合わせた言葉の翻訳、解説版の作成
- ・ 自然、文化、芸術に関わる既存事業のピックアップ
- ・ 市民が日常生活で触れられる啓発ツールの開発

今後の役割分担

- ・ 事務局：条例の具体的な条文作成
- ・ 全委員：具体的・実効性のある提案検討

●委員の主な発言・視点まとめ

- 課題認識：当時と課題が変わっている。未来へ繋ぐことが必然。（吉良委員・委員長）
- 認知・名称：そもそも宣言が知られていない。「人づくり」など日常生活に関わる、市民に届く名称やキャッチコピーが必要。（安達委員・谷垣委員）
- 条例の性格：行政向けの「傘（理念）」か、実効性重視か。理念に偏ると浸透せず、具体的すぎると傘にならない。（委員長・谷垣委員・事務局）
- 「継承」の価値：農業・農家の例のように、お金にならなくても残していくべき価値を伝える「継承」という言葉が馴染む。（吉良委員・安達委員・田代委員）

第4回丹波の森づくり推進検討委員会の意見のまとめ

【課題の変遷】

30年前：外部開発圧（オーバークース） → 現在：利用減少（アンダーユース）・認知不足



【新たなアプローチ：条例と提案書の2層構造で解決】

◆ 条例案（上位の包括的な理念）

【核となるキーワード】 『継承』

- ・ 過去の積み重ね、自然や町並みの価値を未来へ繋ぐ
- ・ 基本理念の中に、実践層（市民）への思いを内包する



接続（付帯意見・提案）

◆ 提案書・ツール（実効性と浸透性の担保）

【具体的なアプローチ】

- ・ 年齢に合わせた言葉の翻訳、解説版の作成
- ・ 自然、文化、芸術に関わる既存事業のピックアップ
- ・ 市民が日常生活で触れられる啓発ツールの開発

【役割分担】

条例の具体的な条文作成



具体的・実効性のある提案